

令和3年度 施政方針

今年度の主要な事業や予算についての方向性を示す施政方針。令和3年3月議会で吉瀬町長が述べた施政方針をお伝えします。

※広報たらぎ掲載用に内容を一部抜粋しています。

住民の皆さまの命と暮らしを守るために

コロナ禍の対策と災害復旧

はじめに

令和3年2月7日執行の多良木町長選挙で、再度町長としてご信任を賜りました。今回の結果は住民の皆さまからの「感染症対策と災害対応をきちんとやってほしい」という意向であったと受け止めております。この声に答えるべく、多良木町の発展のために全力をもってあたりたいと考えております。

この4年間の町政は、課題を抱え、常に俯瞰的な視点からの舵取りを意識し、



吉瀬浩一郎町長

町の10年後20年後を透視して施策を進めてまいりました。

特に令和2年は、多良木町のみならず人吉球磨10市町村にとりまして大変厳しい試練の年となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大と令和2年7月豪雨の中、「住民の皆さまの命と暮らしを守る」ことこそが私たちの仕事」と改めて自覚させられた年となりました。

新型コロナウイルス感染症の対策

さまざまな業種の代表者と意見交換会を行い、「借入金金の利子補給」や「国・県の補助制度から洩れた法人・個人事業者に対する補助」、「固定費の負担が重い事業所の家賃補助」、「プレミア

ム商品券」、「くらし応援券」などの事業を実施しました。今後も、順次必要な対策を行ってまいります。

また、ワクチン接種に向けて、1月27日に医師会の先生方との打ち合わせを行いました。現在の予定では、まず2月下旬に医療従事者、4月に高齢者、その後、基礎疾患を持つ方・介護施設職員の方、60歳から64歳までの方を優先して実施します。その後、それ以下の年齢の方を予定していますが、政府の考えやワクチンの輸入の状況などにより時期がずれこむことも充分考えられます。上球磨4町村では体育館などを利用した集団接種を予定しています。ワクチン接種の目的は、社会全体で集団免疫を獲得することにあります。この目的が達成されれば、コロナ後の経済活動が見えてくるものと期待しております。

九州のお米食味コンクールで3連覇、町が誇る「コメたらぎ」

「九州のお米食味コンクール・in宮若（福岡県宮若市開催）」で、多良木町のお米「コメたらぎ」が3年連続グランプリに輝きました。

（一財）たらぎまちづくり推進機構の誕生

今回の受賞は、数年前から地方創生の一環として町が行っている「コメのブランド化」によって、他自治体の並みいるブランド米を凌駕することができた「素晴らしい成果」だと思えます。特に、「田んぼのチカラ研究会」のメンバーが初の個人部門で最高賞を受賞されたことにより「多良木のお米は美味しい」という認識を深く印象づけることができました。アドバイザーの遠藤さんや松田さんをはじめ、「田んぼのチカラ研究会」の皆さまの成果に心から敬意と感謝を表したいと思えます。

コメのブランド化や多良木町の野菜で作るドレッシング事業などで一定の成果をあげてきた地方創生事業ですが、更なる発展のためには地域外の多くの関係先と連携・協働を進めていかなければなりません。その受け皿として、外部の人材・資金・ノウハウと地域の生産者・法人とをつなぎ合わせるべく、あらゆる局面にすばやい対応が可能で行政ができないきめ細かなサービスを提供できる組織が必要となります。

町では、テレワークで会社と人をつなぐ「㈱マミーゴー」や、世界でWiFi（ワイファイ）事業を展開する「フォン・ジャパン」全国で空き家活用多拠点居住サービスを提供している「㈱AD Dress（アドレス）」などとの連携が実現し、先端的な企業との協働の動

7月豪雨の爪痕と災害防止対策、災害復旧の取組

令和2年7月の集中豪雨は、私たちの貧弱な想像を遥かに超える規模で甚大な自然災害をもたらしました。石ニタ地区の県道の崩落現場については、3月11日から通行可能となりましたが、槻木地区の皆さまに大変なご不便をおかけし、誠に申し訳なく思っております。

令和元年に国土交通省からいただいた予算を使って、球磨川とその支流の樹木伐採、河道掘削を行ったことで、球磨川沿いに広がる堤防より低い場所を大水害から守ることができました。さらに、7月豪雨災害のような大規模災害を再び起こさないように、球磨川の本流と支流の樹木伐採、河道

「持続可能な多良木町」をめざして

熊本大学との連携で、地域資源を使った町おこし

町では令和2年から「6次産業化事業」資源を生かした新産業の創出」研究のため、熊本大学大学院生命科学研究所分子病理学分野の喜多助教に地方創生顧問として、事業に参画いただいています。住民の皆さまが生き生きと充実感をもって生活できる「持続可能な

県道五木多良木線上の中鶴橋上流左岸の樹木伐採が終了しており、現在は王宮橋付近と鮎の瀬堰下、柳橋川、牛繰川の河道掘削などを実施しています。更なる安全性の向上に向けて、地元代議士を通じた国土交通省への要望活動を強めていかなければなりません。

町」として残っていくため、人口減少という地域課題の解決に向けた「地域の資源を生かした医薬品、健康食品などの高付加価値商品の共同研究開発」を行ってまいります。

将来的には、熊本大学発のベンチャー起業や研究所の設立などを視野に入れ、大学と多良木町が協働していければと考えています。

きが加速しつつあります。

この時代の変わり目に、全国に先駆けて多良木版地方創生イノベーション（新基軸・改革・革新）を実現するためにも、行政と協働しながら、きめ細かに事業を推進する法人こそが今求められている組織ではないでしょうか。ふるさと納税を活用し資金を集め、若い皆さまの個性が発揮できる環境を整えることを描いておりましたが、これが今回目の見えることになりました。

アフターコロナ 多良木町の政策

文化財を活用し、交流人口を増やす

コロナウイルス感染症拡大を受けて、今後の観光の様相は確実に変化します。現在、文化庁や熊本県との協議を重ねており「多良木相良氏関連遺跡群」の国指定化を目指しています。こ

た。

「一般財団法人たらぎまちづくり推進機構」（以下、財団）という法人の設立を契機に、財団に「ふるさと納税」の事業を移しました。今後、「ふるさと納税」が財団を支える財源となり、運営の財政的な基盤ができれば、新たな事業へのチャレンジも可能となります。興味人口・交流人口・関係人口を移住定住に結びつける活動も必要です。

のような歴史的調査を観光事業と結びつけ、交流人口の増加を図りたいと考えています。

2022年の大河ドラマは小栗旬さん主演の「鎌倉殿の13人」という中世を舞台にした歴史物語です。鎌倉幕府初代将軍、源頼朝に

学んだ二代目執権、北条義時を主人公とする時代絵巻です。まさに、遠江の相良氏が「多良木村」を獲得し、その支配を実行する時期と重なります。

町内にある文化遺産として、平成29年に整備した白濱旅館が多くの団体や個人から頻繁に活用されています。今回のコロナ禍で若干減少していますが、中心市街地の活性化という意味で商工観光に大きく貢献しています。今後は旧高校講堂を改修して、さらに中心市街地の活性化に結びつけることができると考えております。

人吉球磨地域には多くの

文化財が集積されていますが、それを活かしていかないのが現状です。打開するためには「本物であること」と「多良木でしかできないこと」「一生に一回しか経験できないこと」というキーワードを歴史・観光と結びつけ、例えば「九州で

協定を結んでいる「㈱マミーゴー」の仕事を希望されている方で、現在はウェブ・ライターの講座を受講されている方々がおられます。企業ではありませんが、大手のコンビニチェーンの進出がありました。そこでの雇用も生まれています。

この4年間で、町内に7店舗の新規開店がありました。地方創生関連では、ドレッシング工場の2名、財団の3名、代表理事を入れて計6名の雇用が生まれています。

「㈱DeNA(ディー・エヌ・エー)」は「たらぎ財団」で、2月に※プログラミング・ワークショップを行いました。

※プログラミング：コンピュータに対して、ある特定の動きをさせるため、プログラムの設計や構築をする過程のこと

また、グループに東急観光などを持つ「東急エージエンシー」、民泊事業や企業



DeNAプログラミング・ワークショップの参加者

の新規事業立ち上げのアドバイザーなどを行う「スリーエスキャピタル㈱」、食を切り口に新しいかたちの「場」の提供などを行う「㈱コックキング」、多拠点生活プラットフォームを提案する「㈱アドレス」の4社と面談を行いました。

これからは、中央に集まっている企業が固定費の安い地方へ拡散していくというようなことが進んでいくものと思います。

多良木中学校の移転

現在の中学校校舎は昭和

一番美味しいお米を太田家住宅で食べる「あるいは」王宮神社の祭礼を丸ごと体験する」というような観光メニューを揃えることが必要だと思えます。多良木町には多くの文化財がありますので、保存と充分な活用を図ることが重要であると考

えています。令和元年、東洋文化研究家のアレックス・カー氏が来町された際に「多良木町の可能性は限りない、この地方のフラッグシップ（旗艦）は多良木町しかない」とおっしゃっていました。



改修工事後の太田家住宅

アップしていけるような町を皆さまとともに作っていきたいということでした。そのための法人の設立であり、大学との包括的連携協定であり、内閣府からの地方創生人材支援制度による大学からの招聘であると考

災害に強く人にやさしいまちづくり

頻発する自然災害を受けて、新たに災害から住民の皆さまを守るため、災害に強いまちづくりをしなければならぬという新たなテーマが生まれました。7月豪雨に象徴的に見られるような、いっどこで発生するか分からない大規模災害から住民の皆さまの「命と暮らし」を守らなければなりません。そのため、新年度に「危機管理防災課」を新設しました。

主軸事業である農林業を支えながら、これまでの事

かつて球磨地方の中心地であった多良木町の「文化遺産・文化的な資源」を生かしたまちづくりをさらに深化できればと考えております。また同年に、宗像家と豊臣秀吉の関係が明らかに

町に仕事の場を

誘致企業の「㈱ナビック」から、高額な機械導入と10名の雇用をされるという立地協定を締結していただきました。コロナ禍でウェブ・ライターの講座が一時中断していますが、こちらは東京からの仕事を受け、それを納品するという仕事です。

業を継続し、「災害に強く人にやさしいまちづくり」時代の要請に応えることのできる行政」を目指し、「持続可能な町」として残っているよう、町の発展のために全力を傾注したいと考えております。また、法人を核とした地方創生事業の取り組みや、SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた行政サービスの質の向上を目指します。

今後も、職員と一体となり、住民の皆さまの声にこたえるべく「活きるちから」「育むちから」「想うちから」をつなぐまちづくりに取り組んでまいりますので、これからもよろしくお願いたします。

令和3年3月

多良木町長 吉瀬 浩一郎